

第9回 BELCA賞 ベストリフォーム部門 表彰建築物

聖路加国際病院 1号館・トイスラーハウス

所在地：東京都中央区明石町10-1

用途：病院・大学

所有者：財団法人 聖路加国際病院

改修設計者：

（基本設計） 株式会社 日建設計

（実施設計） 大成建設株式会社一級建築士事務所

改修施工者：大成建設株式会社

竣工年：1933年

改修年：1998年



昭和初期（1933～1936年）に竣工した旧聖路加国際病院は、機能的な十字形の平面計画をベースとし、合理的で明快な細部の意匠、アール・デコ様式による多くの装飾、ネズミやノミなどの特異な紋様を随所にちりばめた建築として多くの書物に取り上げられた。今回の「旧聖路加国際病院の保存改修及び復元」の応募内容は、同病院の十字形の中心に位置する聖ルカ礼拝堂と、南側に位置する大部屋病棟として利用されたナイチンゲール病棟および東西両翼建物の一部の保存改修、保存改修建物の両側に鉄筋コンクリート造6階建ての病院施設および看護大学として利用される建物の建設、さらには1933年に別敷地に建てられた鉄筋コンクリート造一部木造・2階建ての洋風住宅建築・トイスラーハウスを移築し、記念館として復元という、大きく分けて3つからなる。

この「旧聖路加国際病院の保存改修及び復元」は、応募建物が建つ第1街区、新病院が建設された第2街区、高層ビルが建設された第3街区の3街区からなる再開発事業の一環として行われたものであるが、企画構想が開始されたのは1982年であり、第1街区での保存改修および復元に関しても、礼拝堂の保存に関する調査・研究が1988年、トイスラーハウスの解体調査が1989年に行われるなど、十分な調査・検討の上に計画が実施されている。3つの街区を総合的に設計することにより、当街区の容積率を低くし、公開空地を広く採ることによって、歴史的建物の保存改修および復元を効果的なものにするという手法は、他の事例に広く適用することは無理ではあるものの、本物件では見事に成功している。

礼拝堂を中心とした保存改修部分では、様々な場所から職員・患者の方々が礼拝堂を見ることができるようという建設当初の考え方が無理なく継承されていること、照明器具を含むインテリアが違和感なく保存されていること、礼拝堂の木製床の下に床暖房を設置するなど、快適性の向上を図りつつ各設備はほぼ全面改修されているが、改修部分を露出させず、かつメンテナンスに配慮した設計・施工がなされていることなど、評価に値する点が多い。また、病院施設および看護大学として使用される新築建物も、旧病院のイメージを継承していること、保存改修部分と階高を揃えていること、トイスラーハウスの復元に関しても、防災用水源を修景施設と組み合わせて設置していることなどが評価できる。

極めて綿密な事前調査・検討によった、質の高い保存改修および復元であり、賞に値するものと判断される。ただし、旧聖路加病院の保存改修部分が礼拝堂を中心としたごく一部であり、両翼がすべて新築であることを惜しむ声があったことを最後に申し添えたい。